

不透明な時代を
生き抜く

名将の戦略

皆木和義

はじめに

いつの時代の誰であっても、それぞれの人には置かれた立場や運命ともいべきものがあるようだ。

本書に取り上げた人物たちも、また、現代の我々もそれは同様である。

いわば「天の時、地の利、人の和」という“天・地・人”などがそれぞれの人間の置かれた立場によって違ってくる。

人それぞれのそうした状況の中で、本書で取り上げた名将たちは、国や領土、藩のために必死で努力し生き、存続や生き残りを賭け、全身全霊を尽くしてサバイバルしてきたと言えよう。

名将とは、大辞泉によれば「優れた武将。名高い大将」という意味であるが、本書では、転じて、名リーダー、優れたリーダーという意味でも用いている。

いわば、名将＝「名リーダー」である。

他方、筆者の仕事の柱が株式上場や成長を目指す企業などの成長戦略策定と企業再建や

経営改革であるので、いつもその参考にしている方々を本書では取り上げている。

その意味では、本書は彼らについてのいわば筆者流活用法である。

ところで、本書で取り上げた真田信繁（幸村）や信長・秀吉・家康については、過去幾多の作家や歴史家が様々なかたちで書き、評論してきた。

もしかすると、何百の作家によって書かれているかもしれない。否、それ以上かもしれない。

彼らについての史実やエピソードの内容などはほとんど変わらないが、そのような中で、本書では筆者の視点から、彼らの哲学や考え方、ビジョンや戦略・戦術をどう活用するか、現代のビジネスにどう活かすかという観点に力を置いて執筆させて頂いている。

真田三代（昌幸・信幸・信繁）は、織田信長・豊臣秀吉・徳川家康という圧倒的強者に翻弄されながら、どうサバイバルしていくか、それはさながら、「中小企業や小さなベンチャー企業がどのようにして生き延びるか」ということと類似しているといえよう。

小が大とどう戦い勝利を得るか・生き延びるかの戦略と戦術、誰とどのように提携するか、合従連衡のあり方、「真田魂」の発露ともいえるべき真田三代の人物の三者三様の生き方・生き様を通して、真田流サバイバル術を考えてみたい。

また、戦国三英傑といわれる信長・秀吉・家康からは、成功の原理や天下取りの戦略・手法をまず考えてみたい。

一方で、人間の一生や「家」（家名）の存続という観点からは、彼らの栄枯盛衰の諸相や、諸行無常を感じる。

信長四十九歳、秀吉六十二歳、家康七十五歳の一生だったが、その寿命がもし変わっていたら、また、信長がもし本能寺の変で急死しなかったら、歴史はどうなっていただろうか。

この三人の役割、使命とは何だったのだろうか。「どのように天下を取り、継続的に発展させて安定した平和な世の中をつくっていくか」というそれぞれのステージごとの、ステージに合わせての使命だったのだろうか。

三人合わせての「天下餅」のつき方、天下餅のリレー、バトンの渡し方やあり方は、企業の事業承継のあり方を考える上での一つの好例と言ってもいいかもしれない。

本書ではそれらに思いを馳せながら、彼らに対する私流の学びとどう活用しているかについて執筆させて頂いている。

そして、上杉鷹山と山田方谷、そして恩田木工は、企業再建や経営改革を仕事の柱の一つとする私にとっては、最も参考になっている名リーダーといっても過言ではない。恩田木

工については、真田三代の項で少し触れさせて頂いた。

鷹山は藩主（大名）、木工は代々の重臣の家に生まれた家老、方谷は農民出身の儒学者というそれぞれの置かれた立場で全力を尽くして改革を実践した。

彼らの経営改革の哲学、取り組み姿勢、改革手法などは現代でも大いに参考になる。読者の皆様もそれらを現代に合わせ、変じて考えてみられると、腑に落ちることが多いのではないだろうか。

繰り返しになるが、歴史上の人物の史実やエピソードなどは、新事実や新資料が発見されない限り、どの本を読まれてもそんなに大きく変わらないだろうが、彼らから学ぶことはあまりにも多い。

その中で、筆者流の学びとヒントのエッセンスを本書では述べさせて頂いた。

読者の皆様におかれても、本書をきっかけに、ご自身流のたとえば信長流戦略、秀吉流戦略、あるいは、家康流戦略をつくられ、身につけられて成功して頂けるなら幸いである。

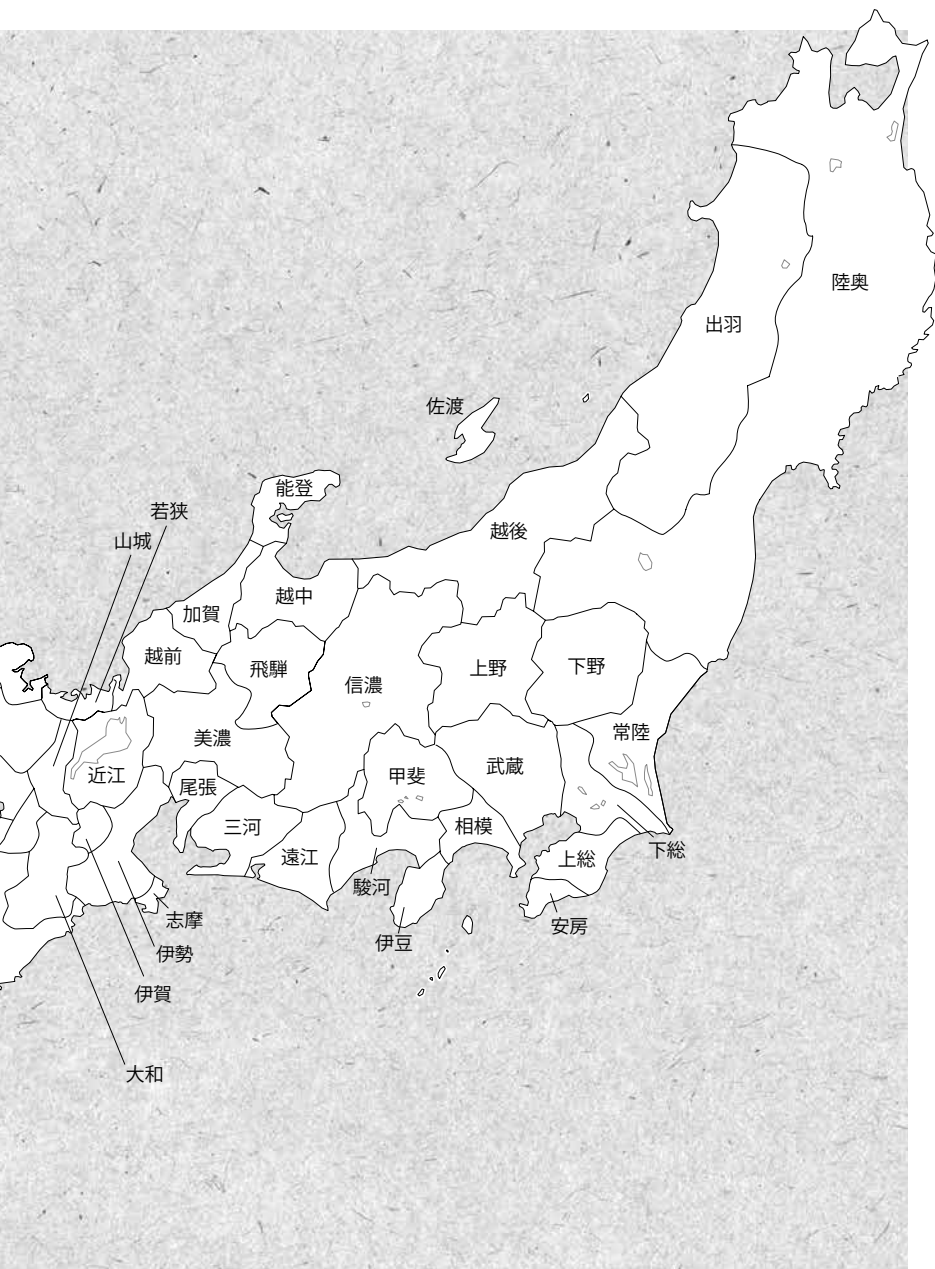
また、今日という時代はグローバルな大競争時代である。極論すれば、弱肉強食の厳しい戦いの時代である。しかも、将来の先行きは不透明である。

そのような視界不良、不透明の時代の中で、読者の皆様がどのようにサバイバルし、生き抜くかのヒントを、本書からもし少しでも見出して頂けるなら、著者として望外の喜びである。

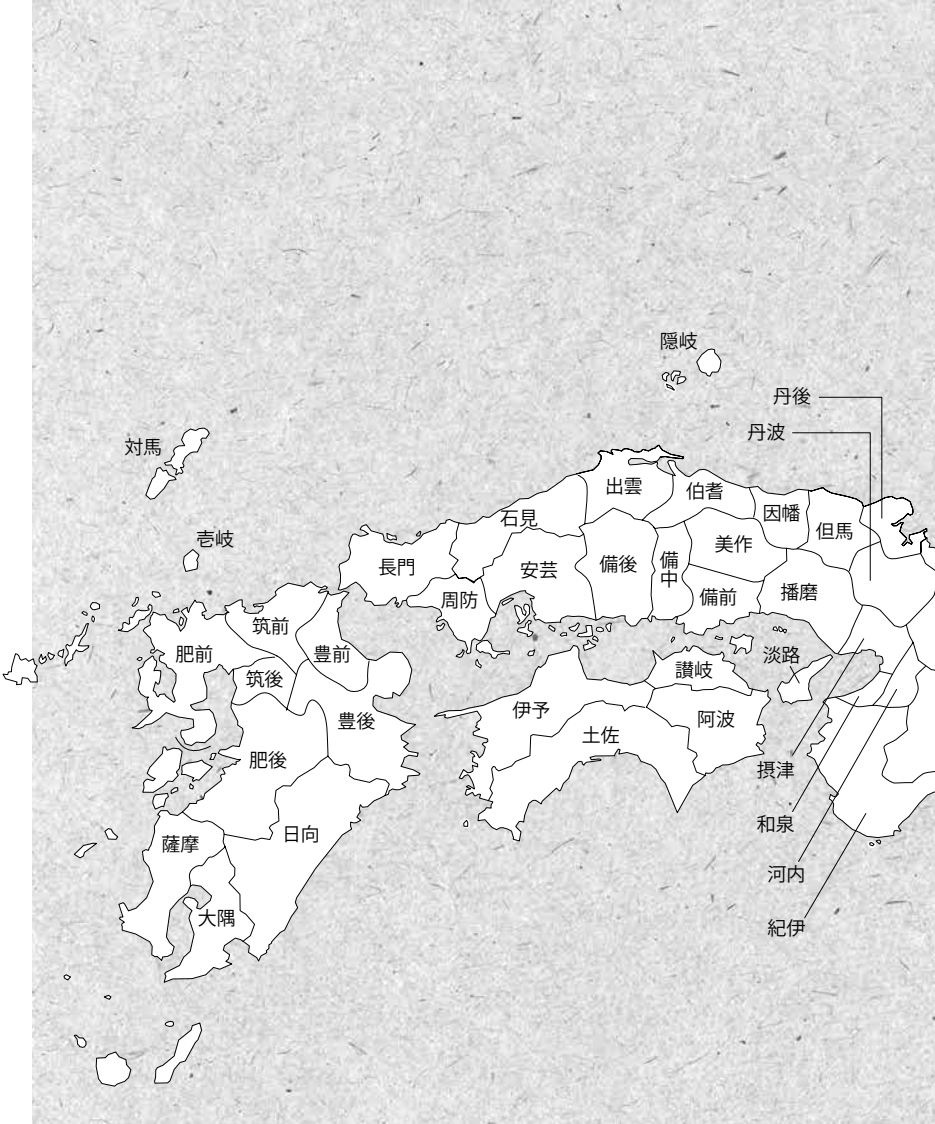
また、それらを通じて、本書が読者の皆様のビジネスや人生に少しでもお役に立つならば、筆者としてこの上の幸せはない。

2016年夏

皆木 和義



旧国名日本地図 (戦国時代)



目次

はじめに	3		
CHAPTER 1	真田三代	不惜身命の魂	11
CHAPTER 2	織田信長	破壊なくして、新しい世界は切り開けない	69
CHAPTER 3	豊臣秀吉	発想の転換で変革をもたらす	97
CHAPTER 4	徳川家康	「反省力」で天下を平定する	133
CHAPTER 5	上杉鷹山	改革を成し遂げさせた不退転の覚悟	171
CHAPTER 6	山田方谷	真心と慈愛をもって藩を再建	213
おわりに	253		